

2020年1月中旬配本予定

あいたくて ききたくて 旅にでる

著者：小野和子（民話採訪者）

編集：清水チナツ

写真：志賀理江子

デザイン：大西正一

寄稿：濱口竜介 / 瀬尾夏美 / 志賀理江子

本体 2,700円+税 368頁 / A5変形判

ISBN：978-4-9911310-0-4 C0095



むかし、むかし。あるところに――

海辺の町や山奥の集落で、口から耳へと語り継がれてきた「民話」

東北で50年ものあいだ、一軒一軒の戸を叩きながら「民話」を乞うてきた民話採訪者が聞いたのは
民話とともに語られた「民の歴史」、抜き差しならない状況から生まれた「物語の群れ」だった

1934年生まれ of 著者が幼少期に経験した戦争。山と積まれた本が炎に包まれ灰となり、大事にしてきた教科書に黒々と墨を塗る。

子どもながらに抱えた心の穴を埋めるべく、著者が東北の村々を歩いた日々は50年を数える。

「あなたの話を聞かせてください」と乞う民話採訪者に施されたのは、民の口から語られた「この世の真実」だった。

採訪日記を軸に、語られた民話、文献、手紙などさまざまな性質のテキストが、採訪の旅で得た実感に裏打ちされ編まれている。先行きの見えない不安定な現代社会のなかで、過去に耳を澄ませこれからの生き方を模索するすべての人々に贈りたい一冊。小野和子の独自の知性や姿勢に共鳴する若手表現者による寄稿3本を収録。表紙や本中には宮城県を拠点に国内外で精力的に活動する写真家・志賀理江子による撮りおろし写真を掲載。本の中に響く声を、丁寧に文字組した大西正一によるデザインワークも魅力のひとつ。

小野和子（おの・かずこ | 民話採訪者）

1934年岐阜県生まれ、宮城県在住。

1969年から宮城県を中心に東北の村々へ

民話を求めて訪ね歩く民話採訪を一人で始める。

1975年にみやぎ民話の会を設立。

85歳になった現在も、民話採訪の旅を続けている。

寄稿

「聞くことが、声をつくる」 濱口竜介（映画監督 | 「寝ても覚めても」カンヌ国際映画祭出品）

「ものがたり灯るところへ」 瀬尾夏美（アーティスト | ヨコハマトリエンナーレ 2017 参加）

「幼き、死者の声」 志賀理江子（写真家 | 木村伊兵衛写真賞受賞）

▶ 内容のお問い合わせ、取材やイベント等のご相談は、PUMPQUAKES（パンプクエイクス）・清水まで
Tel：050-5373-8514 Mail：pumpquakes@gmail.com HP：www.pumpquakes.info

▶ ご注文はツバメ出版流通まで FAX:03-3721-1922 TEL:03-6715-6121 <http://tsubamebook.com>
mail:info@tsubamebook.com

| | | | |
|----------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 貴店名(番線印) | PUMPQUAKES 新刊 | | www.pumpquakes.info 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人 |
| | 注文数 | 著者：小野和子（民話採訪者） あいたくて ききたくて 旅にでる 本体2,700円+税 368頁/A5変形判 ISBN:978-4-9911310-0-4 C0095 | |
| ご担当: | 様 | 冊 | |